

ラープ 「私の大分への想い」

作品集

終焉の地はやはりふるさと大分
 安達 邨

私が「大分」を強く意識した最初は東京の大学に入ってからの私が「大分」を強く意識した最初は東京の大学に入ってからのに、世上よく聞く話だが、田舎から都会へ出て行ってからかわれるのが「方言」。それが嫌で無口になったりノイローてからかわれるのが「方言」。それが嫌で無口になったりノイローではいったが、彼らは面白がって復唱する。それが嫌で無口になったりノイローだとは「しゃ・しい・しゅ・しえ・しょ」と聞こえるらしい。例えばには「しゃ・しい・しゅ・しえ・しょ」と聞こえるらしい。例えばには「しゃ・しい・しゅ・しえ・しょ」と聞こえるらしい。例えばには「しゃ・しい・しゅ・しえ・しょ」と聞こえるらしい。例えばいる。彼らは面白がって復唱する。それが嫌で無口になったりノイローである。ならは気色ばむ。「今、君は馬鹿と言った」と。

時は急いで「失礼」とわびを入れるのだった。い慣れた言葉は一朝一夕には直らない。で、時として出る。そんなと言った」と。そんなことがあってこの「ばか」は封印したが、言「ばか、そうじゃないんだよ」と、打ち消すと「ほら、また馬鹿

がない。大きく深呼吸しようにも空気が汚れている。 「隣は何をする人ぞ」の言葉通りだ。が、それより何より自然た。人との付き合いに疲れる。関係がなければろくに挨拶もしな一方、私はその東京(都会)に馴染めず就職するなら大分と決め業したらサ、東京で就職する」と言い、早々と「大分」を捨てた。業した折には大分弁(方言)だった。が、同郷のS君は「僕サ、卒省した折には大分弁(方言)だった。が、同郷のS君は「僕サ、卒わきまえ、以後彼らと話すときは意識的に共通語を使い、大分に帰わむし、私はそんなことぐらいではへこたれなかった。TPOをしかし、私はそんなことぐらいではへこたれなかった。TPOを

に帰ってきた。その当座、村の人から「あんた、全然前と変わって、帰ってきた。その当座、村の人から大学を卒業すると躊躇なく大分にいいからと山羊の乳や卵、牡蠣などを持ってきてくれた。高校時代肋膜炎を患ったときには近隣の人が心配し、栄養だが、少し歩くと瀬戸の海が目の前に広がる。そんなところで私はその点、我が故郷は自然に恵まれ人情に篤い。家の前は雑木の山

のを思い出す。やはりそうだったと私はその時直感した。いないな。東京帰りは気取って上品な言葉を使うのに」と言われた

対でなければ。それでこそお互い親近感が増すのである。は、しっくりこないのは当たり前。やはりここは同じ大分弁での応時相手は大分弁で話してくるのにこっちは共通語(東京言葉)で人と人とのコミュニケーションに言葉は欠かせないのだと。その

ト・抑揚なども)になじまなければならない。「郷」で皆と一緒に生活するにはいち早くその郷の言葉(アクセン言)を温存していた。「郷に入れば郷に従う」という諺があるが、私は早くからそれを承知していたので敢えて東京でも大分弁(方

活に支障を来すようなことはない。の言葉は払拭された。言葉で互いに行き違いがなくなれば日頃の生の言葉は払拭された。言葉で互いに行き違いがなくなれば日頃の生は思わない。ラジオやテレビなどの影響で今ではほとんど大分特有とうは言うものの、大分弁はそんなに共通語から逸脱していると

としておいてほしいと思うぐらいお節介である。間は人情に篤いのである。「隣は何をする人ぞ」とは真逆で、そっ北弁であろうと、関西弁であろうとそれには寛容である。田舎の人学生時代に体験したような言葉でのからかいはここにはない。東

い。「ケセラセラ」とはこんな心境なのだろうか。が我が家にと言う。が、今更生まれ育った地を離れようとは思わなは遠い。これが目下の悩みである。それを言うと、他郷に暮らす娘う。しかし、死の直前に医者が駆けつけ脈を診てくれるのに我が家るんな人情に篤い田舎を愛し、私はここで命を全うしたいと思

久住巻狩り

井本 盛夫

心地よい汗をかきました。思った以上に面白く楽しかった。ます。お陰様で元気です。最近グラウンドゴルフに誘われ2時間程にかからないようにと軽い運動と水分補給を怠らないようにしてい1歳になりました。毎日心がけていることは転ばないよう、熱中症私は大分市で生まれ育った生粋の大分っ子です。今年の6月で8

体験ができたからです。

本験ができたからです。

祖父母に会うのが楽しみでした。毎回貴重な農業のです。私は10歳の頃から毎年春、夏の休みを利用して母の実家住町へ疎開していました。母の実家が久住町都野という集落にある80年近くに及び昭和20年には大分への空襲から避難するため久私の大分への想いは「くじゅう」です。私とくじゅうの関わりは

木)、縄文、弥生時代の遺跡等数多く静かに佇んでいます。 ち軍、薩摩軍の戦いでの埋葬された場)、歴史の道(小国街道松並 していて歴史文化財も埋没しそうです。キリシタン墓、千人塚(大 農家も後継者不足で田んぼが荒れています。そして久住は観光地化 農家も後継者不足で田んぼが荒れています。森林が環境と人類の貢 山に行き杉の植林を手伝った事があります。森林が環境と人類の貢 しいしたけの駒打ち、牛馬の放牧、酒まんじゅう作り、培養土作り

と思います。歴史ロマンを感じていただければ幸いです。(そこで久住山猪鹿狼寺(いからじ)に伝わる巻狩りを紹介したい

の3人を阿蘇神社に作法習得のため派遣させたのです。阿蘇神社のした。巻狩りには作法があり頼朝は信頼のおける梶原、仁田、畠山要があり軍事訓練さながらの大掛かりな巻狩りを行おうとしていま鎌倉に幕府を開いた源頼朝は政権安定のため武威を見せつける必

後国の実力者だったようです。 ています。あらゆる行事や礼儀作法に長けていて、長きにわたり肥阿蘇氏は2200年、92代続く名家で神社の大宮司も代々踏襲し

す。

一分以上1500名前後が熊本の小国町の人達で指揮官も小国出身で分以上1500名前後が熊本の小国町の人達で指揮官も小国出身で当時の久住高原周辺の人口を上回ります。武者2500名とあります。た。記録によると武者2500名、見物人3000名とあります。巻狩りの作法は専門用語を使わず分かりやすく説明してくれまし

巻狩りの手順(作法)は下記のとおりです。

で動物達を取り囲み、少しずつ小さく巻き込んで弓で射るのです。物を追い出すのです。2500名の内残り2000名が大きな円形打ち鳴らしながら500名の人数が大声で動物達を威嚇しながら獲武者2500名の内500名程の人数が山中に入り、鐘や太鼓を

刹慈尊院が頼朝の命を受け猪鹿狼寺の名を賜り供養を行っている。した。犠牲になった動物達の供養を平安時代から続く久住山麓の古数千匹の動物が犠牲になり300人の見物人に分け与えられま

木のみ)として現存しています。現在の小国町、竹田市、緒方町が涙腺が緩みました。又国道442号沿いに歴史の道小国街道(松並年以上前の先祖を偲んで歌碑を建立されています。歌碑の歌を詠み、猪鹿狼寺の境内には畠山氏の子孫である片山真祐子さんが800

れます。くじゅうの奥深さを思い知らされました。古代、中世と長きにわたり政治、経済で交流があったのではと思わ

二つの歌に思いを込めて

江藤 孝文

グライター、あかしももかさんの作品です。ない・れげんだ』という歌があります。大分県出身のシンガーソン今からおよそ四百五十年前の府内(大分)のまちの姿を謳った『ふ

応しいものだと魅了させられました。せて、身体を躍らせながら楽しく歌うこの歌はまさにゴスペルに相せて、身体を躍らせながら楽しく歌うこの歌はまさにゴスペルに乗ときです。その合唱団の一員としてゴスペルコンサートに参加したコンパルホール合唱団の一員としてゴスペルコンサートに参加した私がこの歌に出会ったのは、平成二九年から令和元年の三年間、

思われる外来の言葉が随所に鏤められています。どと、かつて戦国時代に栄えた府内のまちの人々が親しんでいたとるや(ハレルヤ)、はらいそ(パラダイス)、これいじょ(カレッジ)な歌には、どん・ふらんしすこ(大友宗麟)、ばてれん(宣教師)、あれ「れげんだ」とはいまふうに言えばレジェンド(伝説)の意。 この

れる様子がまるで現のように俯瞰できます。情緒あふれた中世の国際都市であった府内(大分)のまちの活気あふ花咲いた物語…』からは、現存する府内古図に見られるような異国また、歌詞の一節『舶来の文化 めずらしい香りあふれ 交易の町

い未来を届けてくれる歌だと思います。分市民だけでなく大分県民すべてに元気と勇気と、そして素晴らし『ふない・れげんだ』は、大分のまちの原点を謳った歌として、大

つも歌っていた行進曲です。行進曲』が甦ってきます。私が小学生のころ、よく聴いていた、いて北から、この歌を歌うたびに私の胸中には、不思議と『大分県

いることと思います。
に育った大分県民なら誰しも大声を張り上げて歌った記憶が残って動会では必ずこの行進曲が大型の拡声器から流れていました。昭和愁の一片となってしまいましたが、昭和三十年代の小・中学校の運残念ながら現在はほとんど耳にすることがなく、今となっては郷

この『大分県行進曲』の歌詞は公募によって選ばれたものです。この『大分県行進曲』の歌詞は公募によって選ばれたものです。この『大分県行進曲』の歌詞は公募によって選ばれたものです。この『大分県行進曲』の歌詞は公募によって選ばれたものです。

テージに立っていました。《大分の原風景ともいえるイメージ空間》を脳裏に浮かべながらスー分のの原風景ともいえるイメージ空間》を脳裏に浮かべながらスーそんなわけで、私はこの二つの歌から同じように醸し出される

しても同じ夢を見ているわけです。(同床異夢の対義語)の関係にあり、私たちは世代や立ち位置を異に思いますに『ふない・れげんだ』と『大分県行進曲』は異榻同夢

『ふない・れげんだ』は『大分県行進曲』を彷彿とさせます。

「大分いこいの道」や「祝祭の広場」など新たな賑わいと憩いの場現在、大分のまちは新しいまちへと様変わりしています。例えば

の整備も着々と進捗しています。が駅周辺に設けられるとともに「大友館」をはじめ「大友氏遺跡」

賑わいと大いなる希望そして明るい未来を映し出しています。色の光はかつて栄えた府内(大分)のまちのように、行き交う人々のいま、大分のまちの空にはでっかい虹が架かっています。その七

ーが流れてくるときを待ちわびています。 ・から『ふない・れげんだ』や『大分県行進曲』の軽やかなメロディがら『ふない・れげんだ』や『大分県行進曲』の軽やかなメロディーをは大分駅のコンコースや駅前広場に立つ「大友宗麟像」の周り

励ますかのようにタクトが空に向かって力強く振り上げられます。さらに言えば『ふない・れげんだ』の締めくくりでは、私たちを

"れげんだを ぼくらの未来に つなげよう"

大分について思うこと

大塚 雄一郎

くの「中津・宇佐のみち」等がある。 品で大分に関連するものは、戸次川の戦いの「戦雲の夢」街道をゆー今年(2023年)は、司馬遼太郎の生誕百年にあたる。司馬作

ぞ落胆したと思うが古国府に史跡はないので却って良かったか。たが予定がなく時間がないと断られがっかりしたと書いている。さ名があり国府跡の史跡があると思い、行きたいと同行の記者に言っ別府に来て、杉乃井ホテルに泊まった時に大分に古国府という地

たが笑っておられた。司馬先生は、惜しくも七三歳で病死された。生と出会った。まさに奇遇というべき、「ファンです」と声をかけある割烹のカウンターで飲んでいたときに、取材に来ていた司馬先善私事になるが仕事で四年愛媛松山にいたが取引先の若社長と、と

出来て、仲良くなった友人もでき心の糧となっている。跡、長崎県平戸・横瀬浦・長崎、大阪城真田丸等全国の会員と旅が川・熊野神社・那智の滝・潮岬、青森県弘前・竜飛岬・三内丸山遺川・熊野神社・那智の滝・潮岬、青森県弘前・竜飛岬・三内丸山遺れている。自宅と記念館には、なんと三万冊以上の資料が保管され東大阪市の自宅に司馬遼太郎記念館が建てられ財団法人で運営さ

出来る印象だ。は、「お人好し」というものだ。ふーむと考えさせられるし納得もは、「お人好し」というものだ。ふーむと考えさせられるし納得も郷に戻るとき大分合同新聞にお別れの手記を残している。大分県人本題の大分に戻るが鹿児島県人の大分事務所長が定年退職して故

当に生活しやすい所だと思う。 材がよく他所から来た人をうならせている。 自分もそう思う、本材がよく他所から来た人をうならせている。 自分もそう思う、本大分は、自然に恵まれており、気候も温暖で魚・野菜・肉等の食

'豊の国」往古より、そう呼ばれていたのも頷ける。

小学六年の夏だった。 実は、私は幼少年時代、父親が転勤族だったので大分に来たのは

と呼ばれている。 2学期から大分弁の洗礼を受け、大分に溶け込むのに苦労した。 4と姉は、戦後のベビーブーマーである。団塊の世代を介6の夏までは、宮城県多賀城市にいた。全く違う文化圏からの母と台湾の高雄で昭和十九年に結婚している。終戦後故郷の大分直入町)、母の元本籍は、大分市松岡で軍人だった父が台湾生まれ直入町)、母の元本籍は、大分市松岡で軍人だった父が台湾生まれている。 2学期から大分弁の洗礼を受け、大分に溶け込むのに苦労した。 2学期から大分弁の洗礼を受け、大分に溶け込むのに苦労した。

さと大分を客観的に見ることができた。感想として、大分では時間時代の四年間と会社員三○代に東京勤務三年半を東京にいたがふる自分史的になって恐縮だがもう少しお付き合い願いたい。「大学

持った。私だけの偏見かもしれない。がゆっくり進んでいる、東京人は、せかせかしているという私見を

興味を持って勉強している古文書の解読である。で、特に中世大友氏の統治した豊後について知ること、又従前から、とりとめのない事を書いてきたが現在の私の興味は、大分の歴史

に勉強を始めた。今はある程度の域にいっていると自負している。機会に古文書講座・教室に通い、解読入門書・辞典を購入し本格的りたいと思っていたがなかなかできずにいたが六五歳の定年退職を日向子氏の本を読んで感銘を受けたことで古文書が読めるようになこと、NHKで放送があった「お江戸でござる」の解説者の故杉浦に伝わる古文書の解読を依頼されたがほぼほぼ読めず情けなかった大学生時代、信州上田の旧家柳沢家を群馬県新町に訪れた時、家

になっている。
〇法人大友氏顕彰会に入会して同好の人との語らいが自分の楽しみ
又、郷土の偉人「大友宗麟」、及び大友氏の顕彰をしているNP

です。 エッセイとは呼べない代物となってしまいましたが伝われば幸甚

わたしと岡城跡

片野 アケミ

堂などを訪ねた。その時と変わらぬ町並み、景色がそのまま昔にいがある。卒業後、友達3人で竹田の町を散策した。廣瀬神社や愛染った友の姿と岡城跡だ。岡城には高校生の時に遠足で行った思い出私は高校時代を竹田で過ごした。振り返り思い出すのは仲の良か

みた。車で一人たずねてみたりもする。大好きな岡城跡を私なりに調べてずなってくれる。なかでも岡城跡が好きで急に思い立ち、大分から

地、台地の先端で川が合流していることで天然の堀になっている。る。阿蘇溶結凝灰岩を北の稲葉川、南の白竜川が侵食して出来た台25mに位置し東西1500m、南北800mの広大な敷地であ一岡城は伊予松山城、熊本城と並び三堅城と言われている。標高3

城たらしめた(大友興廃記)。の侵攻に耐えた。手勢千人で三万人余りを相手に守り抜き岡城を嶮薩摩軍に内応、投降した中にあって岡城に拠った志賀親次は島津軍(1586~1587)の島津の侵攻(豊薩戦争)。豊後南郡衆が 名城としての名を高めたのは、戦国時代末期天正14~15年

恩賞地となっていわゆる小藩分立を迎える。 敗で改易された後、豊後は太閤蔵入地となり、次いで豊後家臣への文禄3年中川氏の岡藩入部、文禄2年大友吉(義)統朝鮮出兵の失

面(のづら)積み」、石の表面や角をたたいて石同士の隙間を減ら主に3種類ある。加工していない自然石をそのまま積み上げた「野「笑い積み」と呼ばれている。石垣に使われる石材の積み上げ方はこの鏡石は大きな口を開けて笑っているように見えることから

蘇の山が一望できる。視界をさえぎるものは何もない。

蘇の山が一望できる。視界をさえぎるものは何もない。

蘇の山が一望できる。視界をさえぎるものは何もない。

蘇の山が一望できる。視界をさえぎるものは何もない。

「村ち込み接(はぎ)」、隙間をなくした「切り込み接」などした「打ち込み接(はぎ)」、隙間をなくした「切り込み接」などした「打ち込み接(はぎ)」、隙間をなくした「切り込み接」などした「打ち込み接(はぎ)」、隙間をなくした「切り込み接」など

議で魅力的な町だと思う。行きたい思う。竹田は街並みのなかに歴史がそのまま存在する不思て帰れる場所なのかもしれない。また新しい発見を楽しみに竹田へられない。変わらないからこそ、卒業後何十年たっても、私にとっ 岡城跡は何もない場所だからこそ悠久の年の流れを感ぜぬにはい

大分県の豊の国づくり

島

でも出色の人づくりの歴史から学び取ることが出来る。中津市の畑づくりは土づくりから、国づくりは人づくりから。大分県の中

た人づくりの活動に学ぶ。かれた『中津市周辺の歴史その(四)』を読み、中津市の過去に行っかれた『中津市周辺の歴史その(四)』を読み、中津市の過去に行っ「学問による人づくり」。NPO法人大友氏顕彰会の牧理事長が書

参考となったのかも。 参考となったのかも。 東平家に養子縁組され入封した。 『蘭学大名』として天下が認める 奥平家に養子縁組され入封した。 『蘭学大名』として天下が認める 奥平家に養子縁組され入封した。 『蘭学大名』として天下が認める 中津藩の五代目当主奥平昌高(蘭学者)は、天明元年・一七八一年、

させていただいた。

させていただいた。

が身』を演歌・華岡青洲の妻「加恵」の演題で歌手「古都清乃」別の妻』を演歌・華岡青洲の妻「加恵」の演題で歌手「古都清乃」別。私が最も興味を持ったのが華岡青洲だ。有吉佐和子の『華岡青る。前野良沢、三浦梅園、藤田敬所、村上姑南、大江雲澤、華岡青年が生んだ幕末の学者の面々に錚々たる人々を見ることが出来

「美しいお母さんに憧れて何も知らんで嫁いできましたがやのし」「美しいお母さんに憧れて何も知らんで嫁いできましたがやのし」がありますが、ここは自ら泣いてはいけませんよ、本を朗めました。もう15年が過ぎましたが、今でも「あの歌は素晴らしな指導を守ってカラオケの会場で歌い聴衆に感動を与えたことがありました。もう15年が過ぎましたが、今でも「あの歌は素晴らしかったですね」と声をかけてくださる方がいます。素人でも観衆をかったですね」と声をかけてくださる方がいます。素人でも観衆をの誇りです。実はこの歌を歌ったのは全盲で私の生徒の中でも忘れのきりです。実はこの歌を歌ったのは全盲で私の生徒の中でも忘れることが出来ない人です。うまく表現できませんが私自身に大きなることが出来ない人です。うまく表現できませんが私自身に大きな感動を与えたのです。コロナ禍でこういったドラマが縁遠くなりま感動を与えたのです。コロナ禍でこういったドラマが縁遠くなりま感動を与えたのです。コロナ禍でこういったドラマが縁遠くなりまがありませんがありますが、ここは自ら泣いてはいけませんよ、本を朗したが、一曲のカラオケにはこのような力があるのです。

出来る。の加徳は全盲となる。多くの身内の力を借りて人命を救う麻酔薬がの加徳は全盲となる。多くの身内の力を借りて人命を救う麻酔薬が発明した先駆者だ。研究の途上で癌は実験段階で死に追いやり、妻華岡青洲は、日本で初めて乳癌外科手術を自ら開発し、麻酔薬を華岡青洲は、日本で初めて乳癌外科手術を自ら開発し、麻酔薬を

が話題となる。 実母と妻などがテレビ映画化され、多くの人の感動を呼んだこと

が歴史の大切さを痛感している。

中津の学問は、広瀬淡窓、帆足万里や福沢論吉を生み出し、あら中津の学問は、広瀬淡窓、帆足万里や福沢論吉を生み出し、あら中津の学問は、広瀬淡窓、帆足万里や福沢論吉を生み出し、あら

後藤新平は、その死に際に京都で次のような語録を残している。 最後にまとめとして、大正7年から12年まで東京市長を務めた

てくださいます。これからの大分県人はこれだ(引用)。養成する人は「上」。私の尊敬する先輩が何時も私にアドバイスし躍する場を作る人は「中」。後継者を指導育成し、次代を継ぐ人を銭儲け財産づくりに専念するのは「下」。組織作りに努め人の活

「まずは人づくりに専念する時代と心得ます」

の思いを文章としました。 私はこの世にはいないでしょうが、輝く大分県であってほしい。そ私はこの世にはいないでしょうが、輝く大分県であってほしい。そたら今は人口減でもこれからの大分県は楽しみです。但し二十年後、だき、十年、二十年、五十年の国づくりに備える。そのようになっトの年です。中津の先人の歴史に見習い、人づくりに投資していた新しく誕生した佐藤知事さんの下、豊の国の歴史づくりのスター

度豊の国の人づくりに生かしていく事をお願いします。大分県下の教育委員会の先生方には、歴史を大事にする教育を今

がっているのではないかと思います。 地域の「絆」を大切に守る…こういった努力は子供は見ています。 たりすることも面倒がらずに実行し、ご先祖様を大切にし、家族や たことが、当節は、かんたんに細く小さくすることが流行し、家族 の縁日、正月、お盆、これらの日常の行事を大切に守り継続してき の縁日、正月、お盆、これらの日常の行事を大切に守り継続してき

弘安の昔開祖しふるさとは

豊後清田と聞きし尋ねて」

行に至っている。 安家であり、清田一族に関する十年余にわたる調査を基に同書の発 史家であり、清田一族に関する十年余にわたる調査を基に同書の発 は熊本・玉東町文化財保護委員であると同時に清田氏ゆかりの郷土 編集・発行された「大友の末葉・清田一族」の巻頭言である。両氏 右記本稿のタイトルは狩野照己・前田重治両氏により平成七年に

る清田庄・現判田地区であり、開祖である清田直時(大友三代頼泰ここで言うふるさと豊後清田とは小嶽城(別名清田城)を拠点とす

の弟重秀の孫)は弘安八年(一二八五)小嶽城に居を定めている。

でした。 一次の であることを知ることと であることを知ることと でから「大友の末葉・清田一族」とともに清田一族関連の調査資料 にの自分のふるさととは熊本であると思っていた。然し冒頭の狩野 にのに転居したが大分には実質四年しか生活しておらず、正直なと での提示を受け本当のふるさとは患者も多い。その熊本から父親の転勤で がに生活し、中学・高校時代を大分で過ごした。熊本・玉東町とは ないにと

連れて行ってくれたことをつい先日のように思い出す。 の高校時代の親友が、その存在を教えてくれた上にわざわざそこに因縁を感じさせるものがある。中でも小嶽城は田北一族の末葉であは短かったがふるさと大分での生活は濃厚で且つ大友家との何かの校に通い、最終的には遠く小嶽城を望む敷戸に転居した。時間的には大友館の西顕徳、その後万寿寺北の金池から上野原館の近くの高は大友館の西顕徳、その後万寿寺北の金池から上野原館の近くの高は大友館の西顕徳、その後万寿寺北の金池から上野原館の近くの高

土着していったことを示している。を離れた清田一族が主家大友家の没落とともにその戻る場所を失い姓が存在するという。この違いはまさに大友の末葉として開祖の地はぼ同じ世帯数(現状約二千世帯)の玉東町には百五十戸以上の清田間けば現在開祖の地判田地区には清田姓は二十戸足らずしかなく、

と伝えられているが、戸次川の戦いの後キリシタンの里清田庄は島 (宗麟)により肥後玉名郡山北二十一町歩の代官として清田遠江守入 (宗麟)により肥後玉名郡山北二十一町歩の代官として清田遠江守入 を安った清田鎮忠(QUIOTADONO)もキリシタンであった。フロイ カンの里としても繁栄しており、その中心的な存在で宗麟の娘ジュ なの里としても繁栄しており、その中心的な存在で宗麟の娘ジュ なるを娶った清田鎮忠(QUIOTADONO)もキリシタンであった。フロイ 大友軍大敗北、更には天正十四年末(一五七八)日向・耳川の戦いで島津 大友軍大敗北、更には天正十四年末(一五七八)日向・耳川の戦いで島津 大変を娶った清田遠江守入 が、天正六年(一五七八)日向・耳川の戦いで島津 大変を娶った清田遠江守入

> 活路を見出していくこととなる。 大類されるが同様に開祖の地清田庄への想いを胸にそれぞれの地でぬ辛い運命を背負うこととなった。清田庄を離れた清田一族は肥後ないにとっても同じであり、開祖の地豊後清田庄への帰還が永遠に叶わにとっても同じであり、開祖の地豊後清田庄への帰還が永遠に叶わましい結末ではあるがそれは肥後玉名郡山北に派遣された清田一族清田庄を追われ最終的には肥前・長崎で非業の死を遂げる。何とも清軍に蹂躙されたと伝わる。又清田鎮忠・ジュスタ夫婦も安住の地津軍に蹂躙されたと伝わる。又清田鎮忠・ジュスタ夫婦も安住の地

の墓であろうか。は十字架が刻まれていると聞く。キリシタンであったジュスタの娘は十字架が刻まれていると聞く。キリシタンであったジュスタの娘ている。竹藪の中の墓地には「お姫様の墓」という墓石もあり裏に豊後清田庄の本貫地・判田や光永辺りには今も多くの遺跡が残っ

からその想いを募らせる今日この頃である。 当のふるさと豊後清田への想いそのものであり、遠く離れたこの地の里としての攻防を体現した清田庄を訪ねる旅は、私にとっても本今から七百五十年前の開祖の地小嶽城(別名清田城)とキリシタン

最後の住処は大分で

上藤 富三

宿生活及び社会人時代にも淡々と大分県外を渡り歩いたものだ。岡市内での寮生活で、ホームショックに陥る事無く大学生時代の下の五人家族で過ごした。初めて実家を離れたのは大学浪人時代の福大分には、米穀商店の長男として生まれ、高校まで妹二人と両親

れ叱責された事や今は亡き平和台球場で春・秋期リーグ戦の公式試が、大学では講義をさぼり練習に励んでいたので事務長に呼び出さ大学に所属の野球部に入部する。高校時代は無遅刻無欠席だった勉学に励み部活動を一切していなかったので大学時代には、九州六中学時代や高校時代(当時、修学旅行無しの進学校)は、只管に

いる。
討論を含む共同連携作業等]を経験し有意義に過ごせたと思量して日常挨拶・合宿・飲み会(含むコンパ)・社会問題等に対する熱い合をプレーする等で部活動の意義や素晴らしさ「先輩・後輩らとの

ーと相成ったのである。 逢いとも謂うべき魅力的で賢そうな話の弾む女性が人生のパートナがあり大分へ帰省の度に幾多の見合の席が設けられる中で運命の出いた。母親から「お嫁さんは大分から貰う様に」との厳しいお達しいお。母親から「お嫁さんは大分から貰う様に」との厳しいお達しい。母親から「お嫁さんは大分から貰う様に」との厳しいお達しい。」

地で無事に長男誕生を迎える事が出来た。て貰うべく予定日の一ヶ月前に彼女の実家に帰らせ大分(日赤)のその愛妻が岡山で第一子の妊娠を機に心身ともに安心して出産し

も実家へ戻し大分(日赤)で出産して貰った。となり、ここでは第二子となる長女誕生を迎える事となり、この時次に、福岡県大牟田市(熊本県荒尾市との県境)に予期せぬ転勤

ら近く利便性を考慮して女房のお袋さんが選んだのだろう。届けていたと後で耳にしたものだ。因みに日赤は、我が嫁の実家かお米屋さんを営んでいた親父さんが家内の実家にお米をいそいそとこの2度に渡るカミさんの実家への帰省の際、当時、我が実家で

戸市と全国を駆け巡った。 その後、転勤の連続で、千葉県千葉市、埼玉県上尾市、青森県八

ごもの思い出がある。それに伴い盆・正月時期の帰省に様々の交通手段を用いた悲喜こも

した。千葉・埼玉・青森時代は、飛行機の利用となるのだが、青森(長男)のおむつ(大便)交換後、車窓を開け空気を入れ換えたり「岡山時代には、自家用車&フェリー等を併用した為、車中で乳児

銭では買えない貴重な親孝行が出来たと自負している。程の驚きの出費だった。が、両親が喜んで孫達を迎えられた事は金り格段の時間と費用が嵩み、ここでの3年間半で自家用車が買えるの時には、東京(羽田)での乗り継ぎを要す為、関東からとは異なの時には、東京(羽田)での乗り継ぎを要す為、関東からとは異なの時には、東京(羽田)での乗り継ぎを要す為、関東からとは異なの時には、東京(羽田)での乗り継ぎを要す為、関東からとは異なの時には、東京(羽田)での乗り継ぎを要す為、関東からとは異なの時には、東京(羽田)

く大分に想いを馳せた事も屡々あった。突然に大分弁「よだきい」等が耳に飛び込んで来ると何故か懐かしまた、郷里の大分を離れ各地の転勤先を転々とした際、どこかで

婦、三階子供達)を構えた。

「は、三階子供達」を構えた。

「は、三階子は、三階子は、三階・では、三の時、かつての母親の一言「嫁は大分から」を思て対する事無く快諾してくれた。これが岡山出身の妻だったらどう (三世帯住宅の建設計画)を妻に告げた際、大分出身の妻は何ら その後、年老いた両親との同居を前提に青森から大分へのUター

も知れないと観念している。間で5回に亘る転校を余儀なくさせられた事に対するリベンジ?か関で5回に亘る転校を余儀なくさせられた事に対するリベンジ?かいる状況である。また、長男が大分へのUターンを深刻敬遠?する埼玉県)在住にて独居高齢年金生活者&自由人として余生を送ってその妻も4年前に他界し、子供達は県外(長男;東京都、長女:

し本業?として奔走しているのが本音であろう。写真及び位牌(自案作成の戒名を住職が添削)作成等の終活に着手現在、大分を最後の住処とすべく遺言書の自筆による作成や遺影

埋もれた郷土の偉人 利光鶴松

久良 修一

んどいません。実は私も(利光鶴松以下利光)利光と言う人物を知大分県内で利光鶴松の名前を聞いてどんな人物かを知る者はほと

を教えてもらいました。りませんでした。明治大学法学部村上一博教授から利光と言う人物

力強さと大胆さがあると評しています。どの算盤勘定でものごとを進めるのではなくこれはと思う事を貫くヤモンド」社に利光の人物像に図太さ、度胸、着眼の非凡さ睨みな利光とはいったいどんな人物であったのか当時の経済雑誌「ダイ

立ったものと言える。 治法律学校(明治大学)を過ごした事は利光の人格形成に大いに役治法律学校(明治大学)を過ごした事は利光の人格形成に大いに役利光の人生の節目として、九州から上京して多感な青春時代を明

げたい。
言人(弁護士)②政治家③実業家としての業績・活動を概略的に挙利光の研究は現在も進行中であるが、利光の人生の節目として①代

- 知るバロメーターになるものである。作造らが編纂した明治文化全集に収録された事からも注目の高さを活動は明治23年刊「政党評判記」に記されていて同書は後に吉野る中江兆民とも関係があった事は興味深いことである。利光の政治2)政治家としての利光は、明治自由民権運動思想界の巨匠であ
- 京市における電気鉄道整備を着目した事がその後の小田急に繋がっ市会議員になった時から交通機関完備を既に目標設定しており、東る)実業家としての利光は、鉄道経営においては1896年東京

強く働きかけ賛同者を徐々にふやし事業展開していきました。けており、これらの事業に行政機関政治家の力が必要な場合は粘りている。また電車の為の電力供給を考慮して鬼怒川水力発電を手が

す。
した。それが今日の小田急が発展した原動力となったものでありま者としての利光は、人の能力を引き出すことには非常にたけていまは、豊後大野市にある沈堕の瀧にあった発電所でありました。経営かって大分別府にも路面電車が走っていましたがその電力供給元

県先哲叢書として加えられる日がくることを望みます。す。いつの日か利光の業績が顕彰され大分県でも脚光をあびて大分郷土大分にはまだまだ利光みたいに埋もれた偉人・逸材がいま

す。 提供して頂いた明治大学法学部村上一博教授には謝辞を申し上げま多いに参照した次第であります。今回のエッセーを書くきっかけを注)利光研究においては、明治大学史資料、大学史紀要第29号を注)利光研究においては、明治大学史資料、大学史紀要第29号を

大分~この魅力的な街~

後藤 明彦

分の魅力を存分にアピールできる。いる。灯台下暗しとかよく言われるが、そんなことはない。私は大私は生粋の大分県人である。すでに約六十五年、この街に住んで

ざる名所旧跡・観光スポットが多く存在する。 友宗麟などがあげられるであろう。もちろん、これ以外にも知られ城址、日田天領水、奇岩耶馬渓、福沢諭吉、そして当然のごとく大城址、日田天領水、奇岩耶馬渓、福沢諭吉、そして当然のごとく大い別府温泉、宇佐神宮、湯布院、国東六郷満山、臼杵石仏、竹田岡他県の人に大分と聞いて思い浮かべる地名や特色を聞いてみると

汗を流し、 ろに温泉が湧出している。湯平・天ケ瀬・宝泉寺・筋湯などマニア 大分県はうってつけの場所なのだ。別府・湯布院以外にも至るとこ 午後にはひなびた温泉に入り、癒しのひとときを持つ。そんな私に 協議会の提起する各地のウォーキングイベントに参加し、心地よい 短歌の投稿を趣味としている。県のウォーキング協会やまちづくり ならずとも一度は足を運んでほしい。 私は定年退職後、 お昼にはご当地のうまいもの巡りでグルメ三昧である。 余暇を利用してウォーキングと新聞への 俳 句

り」という詩が掲載されたことがあり、 する情報を網羅したものであるから、 そして、 もう一つの私の趣味である投稿では「大分うまいもの巡 一読願いたい。 拙いものだが大分の食に関

大分うまいもの巡り

中津の鱧に宇佐のから揚げ

安心院の葡萄に院内の柚子

太刀魚丼の国東近い

豊後高田でそばを啜れば

姫島渡れば車エビあり

杵築の牡蛎に城下カレイ

山香牛食べ温泉饅頭

臼杵のフグも忘れちゃならぬ 大分とり天関サバ関アジ

保戸島まぐろに佐伯ごまだし

直川村でかりんとう食べ

清川の桃本匠因尾茶

宇目町

の栗格別な味

豊後大野でやせうま団子汁

竹 田のカボスに荻町トマト

久住ソフトに日田天領水

大山の梅天ケ瀬温泉

玖珠九重で椎茸焼い 7

湯布院スィーツおしゃれな店で

庄内の梨挾間のイチゴ

ぐるり一周大分県

旅の途中で出会いし人の

なにげにくれたみかんがひとつ

もてなす心がなにより美味し

満腹になっていただけたであろうか。

巻である。他にも山や川に恵まれた地形から数多くの名瀑を有して 登山家には山頂からの景色が待っている。ミヤマキリシマの頃は圧 にきれいな海洋資源である。また、由布岳・鶴見岳・九重連山など 佐伯のリアス式海岸からの太平洋、 風 光明媚な大分県は海・山に恵まれ、その景観は臼杵・津久見・ 東椎屋の滝・西椎屋の滝・東洋のナイアガラと呼ばれる原尻 国東半島周辺の海水浴場、とも

いどの季節でも神秘的な世界を堪能してもらいたい。積鍾乳洞などもぜひ訪ねてほしい場所である。夏は涼しく、冬温かインスタ映えする場所として取り上げられている。風連鍾乳洞・稲の滝・玖珠の慈恩の滝・天ヶ瀬桜滝・竹田の黄牛の滝なども最近は

たい観光地の上位にノミネートされている理由であろうか。 大分県は適度に都会で適度に田舎であることが住みたい町・訪れ

でいる人々が魅力的なのは言うまでもない。大分の魅力は伝わったのではないだろうか。もちろん、そこに住ん観光ガイドブックのような脈絡のない文章になってしまったが、

「WE LOVE おおいた」

呉藤 秀

韶

大分県の人口

いう。1年間に1万人弱の減少だ。ショッキングな事実である。は現状の110万人が2040年には95万人程度まで減少すると齢化の影響で減少傾向が続いている。国立人口問題研究所の推計で大分県の人口は長く120万人台をキープしてきたが、少子高

戻らないと出生数は増えず、おのずと地域の経済規模は縮小する。県外へ出た後、卒業しても多くは大分には戻ってこない。 若者がすると東京や福岡の大学や専門学校へ進学する。憧れと夢を求めて予想以上に過疎化がスピードアップしている。若者は高校を卒業

げようと取り組んでいる。らない。微力ではあるが大分の地域力を再発見しふるさとを盛り上とにすることが肝要である。大分の地域力を磨いていかなければな魅力的で自慢し誇れ、自立して生きていけることができるふるさ

国東の地域力

むした石段の上で重要文化財の建築物や仏像が出迎えてくれた。山。ドングリを踏みしめながらクヌギ林の山道を進んでいくと、苔遺産に指定された六つの郷は変化に富んだ山や谷で形成された里神仏習合の霊場である国東半島を時間をかけて巡った。世界農業

の時間はまるで大人の修学旅行だった。
らない風景とその存在感に圧倒され国東の魅力を満喫した。夢心地では住職が読経と丁寧な解説で歓迎してくれた。千年を超えて変わスの岩場では僧侶の先導で辿り着いた絶景に心が熱くなった。寺院スには千数百年の歴史を超えた非日常の空間だった。峰入りコー

地域資源がある。 る素晴らしい魅力を多くの人に知ってほしい。国東には唯一無二のる素晴らしい魅力を多くの人に知ってほしい。国東には唯一無二の神仏習合、重要文化財の寺院や仏像、世界農業遺産の里山、数あ

ふるさとを愛する心

市中心部の三隈川一帯が別世界になったような素敵な時間だった。ないほどの見物客が音と光のショーを楽しんでいる。まるで、日田げられる花火は盆地を囲む山々に反響し、川べりには身動きが取れ念願の大花火大会は聞きしに勝る迫力だった。至近距離から打ち上水郷に初夏の訪れを告げる「日田川開き観光祭」に足を運んだ。

んでいるという。 園での出来事だった。川をきれいにするボランティア活動に取り組と数人の小学生が大人と一緒に昨夜のごみを片付けていた。亀山公た時、「おはようございます」と不意に声をかけられた。振り返る、 翌日の早朝、見えなかった景色と余韻を楽しみながら散策してい

爽快感が増し、足取りが軽くなった。おもてなしの心を感じた。地域を挙げてのお祭りだ。心地よい風でおもてなし地域の宝でありシンボルである三隈川を愛する気持ちと

大友氏の時代

に記されている。 院やコレジオ(高等神学校)、孤児院が併設されていたことが文献ンが奏でられた。顕徳町付近にあった府内教会(デウス堂)には病大友宗麟公の時代、府内の町には讃美歌が流れビオラやバイオリ

ではないだろうか。
内城下の様子を語るような環境を作ることは今を生きる我々の使命明日を担う子どもたちが胸を張って、大友宗麟公や国際色豊かな府た。大分に生まれ育ちながら知らない人が多いのは悔しい。大分のくの人が集まった。中世の日本にヨーロッパの都市が出現してい日本で最初に西洋文化が花開いた府内城下には豊後国内外から多

ただき、「ふるさと大分の発展・活性化」に結び付けたい。「郷土の宝」だと考える。その歴史や文化を多くの方に認知してい鎌倉時代から400年もの長きにわたり続いた大友氏の歴史は

WE LOVE 大分

て取り組んでいきたい。することで、地域浮揚に繋げることは微力だが無力ではないと信じを「LOVE「大分の心を大切にして、ふるさとの魅力を情報発信れ、温泉のみならず多様で特色ある地域力を有している。今後もW紅戸時代以降、小藩分立の歴史を持つ大分県は自然環境にも恵ま

大好きな臼杵

~歴史と自然、温かな人々が交差する地~

小松 恵子

場所です。郷土史の中で大友宗麟の存在は欠かせません。彼は臼杵臼杵という小さな町は、大分県の中でも特に歴史的な意義がある

は、彼の事跡から始めましょう。を中心に繁栄をもたらし、その功績と共に名を残しました。まご

すね。

すことの出来る臼杵湾と大海原の景色は、まさに壮絶という一言ですことの出来る臼杵湾と大海原の景色は、まさに壮絶という一言で高台に建つ城址公園(私達は「公園地」と呼んでいます)から見渡た。その象徴である臼杵城跡は、今もその姿を偲ぶ事ができます。大友宗麟は臼杵城を築城し臼杵を栄える城下町へと変貌させまし

花々に触れる事で、心が癒されるひと時を過ごす事が出来ます。 知らせてくれて美しい景色を作り出します。四季それぞれに愛でる 2 一足早く梅の花が咲き、懐かしい梅のほのかな香りが春の訪れを の花が見下ろす休耕田には、初夏の早朝に咲く優しいピンク色の蓮 2 には桜が満開となり、城跡や街路に花びらが舞います。最近、臼杵 できます。その臼杵には四季折々に美しい花々が咲き誇ります。春 歴史が息づくこの地に立つ事で、彼の功績に思いを寄せることが

また、観光地としても人気の臼杵は、その自然に恵まれていままた、観光地としても人気の臼杵は、その自然に恵まれていままで、 一八四八年から十年の歳月をかけて完成させました。九州初の国宝に指定された臼杵石仏があります。故大林宣彦監督の でいます。又市街地には龍原寺三重塔があり、臼杵が生んだ名匠高 でいます。又市街地には龍原寺三重塔があり、臼杵が生んだ名匠高 でいます。又市街地には龍原寺三重塔があります。故大林宣彦監督の 村では数少ない江戸時代の三重塔で、中には聖徳太子の像が安置されているそうです。このような臼杵の大自然に触れる事でリフレッ かっ出来る事でしょう。

ます。 笑顔で迎えてくれるその心遣いは、まさに臼杵の魅力の一つと言えに対しても心からのおもてなしをしてくれます。 どこに行っても温まる人々が暮らしています。親切で優しい地元の方々は、旅行者 しかし、臼杵の魅力は自然だけではありません。臼杵の町には心

めし」と言われるようになりました。
おからを「きらす」、まぶすを「まめす」と言う事から「きらすま増しして作られ、倹約料理な上に栄養豊富で庶民に愛されました。し」もそんな中、残り物の刺身や中落ちをおからにまぶして、かさ理で、クチナシの実で炊いた黄色いご飯の事です。「きらすまめの「黄飯」や「きらすまめし」は、地元ならではの味を楽しむ事がの「黄飯」や「きらすまめし」は、地元ならではの味を楽しむ事がの「黄飯」や「きらすまめし」は、地元ならではの味を楽しむ事がの「黄飯」と言われるようになりました。

絶妙な味わいです。是非一度お召し上がる価値はあると思います。(そして、臼杵は天然ふぐの産地でもあります。新鮮なふぐ料理は)

私は、海や山の幸豊かな臼杵が大好きです。歴史の息吹を感じなれば、海や山の幸豊かな臼杵が大好きです。歴史の息吹を感じない。白杵にはまだまだ沢山の魅力があります。皆様お誘いでしょうか。臼杵にはまだまだ沢山の魅力があります。皆様お誘ねした交差する地である素晴らしい臼杵を、皆様にお伝えする事が出来た交差する地である素晴らしい臼杵を、皆様にお伝えする事が出来た交差する地である素晴らしい臼杵を、皆様にお伝えする事が出来た交差する地である素晴らしい臼杵が大好きです。歴史の息吹を感じなれば、海や山の幸豊かな臼杵が大好きです。歴史の息吹を感じな

「探して大分」

財津 定行

様々の所を探しましたが、特に伊豆半島と静岡県は探しましたが、大分の日出町に横浜から移住してはや二十年経ちました。今迄、

馬渓の山国町の出身だから、うれしい限りである。いており」「気張らず自分なりの生活をしている」との事、私は耶ました。家内が言うには、大分県人は「人が優しく」「人が地に着所、海が見える丘が気に入り、即、日出町の豊岡の高台に居を構え結局気に入る所なく、出身は新潟の家内を日出町・豊岡に案内した

えている。
っている」と言われ、子供心に感銘し、母を誇りに思ったことを覚っている」と言われ、子供心に感銘し、母を誇りに思ったことを覚いた。ある日村の一家庭からお礼を言われ「母が居るから命が繋が来る日も々々も四季を通じ竹籠に海産物を入れ、村の家庭に届けて戦後母は村々を廻る行商で、祖母と我われ兄妹を育ててくれた。

れ、釣り人が訪れる。である。そこには自然と人情があり、山の麓には山国川の源流が流である。そこには自然と人情があり、山の麓には山国川の源流が流ある池です。今はキャンプ場に成っていますが、自慢の故郷の景色私が懐かしい記憶の底にある風景は、山国町の不二山とその麓に

合う所が山国町と言える。 真の人間同士が触れ このように、最高の景色と静寂が流れる中、真の人間同士が触れ

す。 山国町の人情の源流たる所以が、大分県に有ると想われる此の頃で山国町の人情の源流たる所以が、大分県に有ると想われる此の頃で海を眺めていると、海と太陽が出る町の日出町の素晴らしさと、

刀鍛冶と豊後刀

佐志原 圭子

し大分に家を建てた。父は大分市の出身であった。東京から盆や正以上暮らしてきた。交通公社に就職した年に父が大分の警察に転勤進学した。短大卒業後はJTB日本交通公社に就職し東京で50年豊後森、大分、中津、日田に移り、日田高校卒業後は東京の短大に私は昭和16年に日出で生まれた。警察に勤めていた父の転勤で

うになった。宇佐にある大分県立歴史博物館で企画展が 豊後刀や高田の歴史に関心を持つようになり、聞き書きなどするよ 日)が開催された。この展覧会では出品63点で刀剣類は53 の生産地であることが判った。関門には紀新太夫行平の墓がある。 った。ここが輪中集落であることに気づいた。そしてここが豊後刀 がん剤の後遺症で高田南にある首藤鍼灸院に鍼治療に通うようにな に1年の半分以上は住むようになった。 10 年前、 員で民家や歴史的町並みを見て来た。定年退職後、 地だったことを知るようになった。東京では長年民俗建築学会の会 ビエルが大分に来たことなど大友宗麟による南蛮文化の花開い 月に帰省するところが大分市になった。大分に帰るようになり、 行平作は4振りであった。太刀が2振り、 の名刀」と銘打った企画展(令和4年12月23日~令和5年2月19 短刀が2振りであった。 乳癌の手術後抗 母の介護で大分 「おおいた 振り、

この企画展は日本刀から見る郷土の歴史を紹介するものであった。

けられた点は大分県の刀剣史の特色である」。時代から江戸時代に至る700年余りにわたって日本刀の生産が続安時代から鎌倉時代初期にかけて作刀した名工紀新太夫行平、室町「大分県が古来日本を代表する日本刀生産地のひとつであった。平

ある。 現在、日本刀は女性ファンが多い。博多から来たという若い女性現在、日本刀は女性ファンが多い。 第3 中国の対した豊後刀の価値の存在を確認した思いでよ大の特色は刀身彫刻で倶利伽羅竜王や梵字の彫刻。日本刀に刀が最大の特色は刀身彫刻で倶利伽羅竜王や梵字の彫刻。日本刀に刀がより。(注・行平の作風は細身で小鋒、腰反りが大きく、優美な姿所有)。(注・行平の作風は細身で小鋒、腰反りが大きく、優美な姿がった。文京区にある永青文庫でこの5月に「名刀展」に友人と見には閉館時間ぎりぎりまで写真を撮っていた。3月中旬から東京に戻りる。

一歩を進めてみたいと思う。 大友時代には豊後刀は貿易品として海外に渡っている。この高田大友時代には豊後刀は貿易品として海外に渡っている。大分が戦国時代大友氏による南蛮貿易都市として活躍友館跡は国指定史跡となり南蛮都市、府内の発掘調査や庭園が復元という地域の中に様々な歴史があったことが解ってきた。現在、大という地域の中に様々な歴史があったことが解ってきた。現在、大大大時代には豊後刀は貿易品として海外に渡っている。この高田大友時代には豊後刀は貿易品として海外に渡っている。この高田

変わりゆく故郷

佐藤 英土

一、田園地帯

た。家々の間隔は狭くまた、道路も狭くて、曲がりくねっていた。家々の間隔は狭くまた、道路も狭くて、曲がりくねっていつ世帯が母屋、倉庫、納屋をもっているので、棟の数は多かっであった。世帯数は五十世帯くらいで、ほとんどが専業農家で生まれ育った「牧下」地区の昭和二十年頃は、私が小学校時代

「こ積み」といってワラを積み上げた所で遊んだ。しかった。子供達の遊び場は、神社の境内、稲刈り後の田圃や路が通っていて、田植え時期になると田圃はカエルの合唱で喧集落の周囲は、見渡す限り農地が続いていた。田圃の中には水

やっと一安心し、汗をかいていた。横を通る時で、目を閉じて一目散に走った。集落が近づいたらろしかった思い出がある。特に恐ろしかった場所は共有墓地の道路には現在のような街灯の設備がなく、夜、歩くのが大変恐

、区画整理事業

まった。から始まり、「牧下」地区は、昭和五十年頃から家屋移転が始から始まり、「牧下」地区は、昭和五十年頃から家屋移転が始大分鶴崎臨海工業地帯背後地の区画整理として、昭和三十二年

かたかなは女性の墓石だろうと思う。

私は墓石が撤去される前に、墓石に彫りこんだ年号を調べることにした。彫りこんだ年号を見ると、江戸時代中期の文字があった。形りこんだ年号を見ると、江戸時代中期の文字がことにした。彫りこんだ年号を見ると、江戸時代中期の文字がことにした。彫りこんだ年号を調べることにした。形りこんだ年号を調べる。とは、かたかなは女性の墓石だろうと思う。

している。 している。 現在、自分が元気で生きているのは、先祖の苦労のおかげだとも耐え忍び、子孫という生命をつないできたものだと思った。 も耐え忍び、子孫という生命をつないできたものだと思った。 も耐え忍び、子孫という生命をのないできたものだと思った。 ながら、子孫という住んでいて、天候不順によるコメの 東注になってから「佐藤」の苗字がついていた。私は墓石の

三、区画整理

で減少し、新しい住民が何倍も増加した。つのが世帯数、人口の増加である。以前住んでいた住民は転居区画整理によって、故郷は一気に都会へと変化した。一番目立

地区とは、比較にならない変わりようになった。 先を自由に行き来して、境界らしい境界のなかった以前の牧下界はブロック塀で囲い、庭を作り鉄の扉を付け、かつて家の庭が多くなった。ほとんどの家屋が移転して新築になり、隣の境道路幅が広くなり、直線で舗装された。そして、通りに車の数

った。

「一位宅地の中には、公民館・納骨堂・公園・高いビル・保育

小川が姿を消した。 反面、庭の大木がなくなり、土手やメダカが泳いでいた小さな

を準備して、考えていかねばと思う。がら、故郷をどう進めていけばよいのか、多くの意見交換の場今後は、故郷の良き純朴な人情や残された美しい自然を守りな

郷土への想い

田崎 照代

近くても昔を懐かしむのは、老いのせいでしょうか。中の蛙」です。「故郷は遠きに有りて想うもの」と言われますが、て70年経ちましたが、幸か不幸か賀来を離れたことのない「井のでも、古くは隣村であった大字賀来の地で暮らしています。生まれるは、大分川の中流域、豊後国分寺の近くで、生まれ育ち、現在

地のルーツに気になり始めたのです。中で、聞き慣れた地名や名所・旧跡等に触れるに連れ、自らの生誕主に400年の歴史をもつ大友氏について学んできましたが、その目になります。新しい史実に出会い、驚きや感動に浸っています。私は「郷土の歴史」を学ぶ公民館の講座受講の機会を得て、4年

祭事が行われていたことを詳しく知り、不思議でなりませんでし最近の講座内容から、大分の古代は、南大分の古国府辺を中心に

した。しかし期待は打ち消されました。た。どこで私の育った国分寺のある国分と結びつくのか興味津々で

では、大分市の歴史資料館一帯となり、極近くに「豊後国分寺」 在では、大分市の歴史資料館一帯となり、極近くに「豊後国分寺」 たようです。それは、昭和40年代の発掘調査により証明され、現 地を有し、七重塔、金堂、講堂、鐘楼等が整い、壮大な景色であっ ました。建立当時の寺については、南北300m東西180mの敷 川右岸の河岸段丘という地の利から、この地が選ばれたと聞いてい 710年聖武天皇の「国分寺建立」の政策により、豊後では大分

す。 で、豊後の国分寺に、薬師堂があり、薄気味悪かったことを覚えていまいた。太平洋戦争時に供出させられたと聞く鐘楼も無い鐘つき堂の仏様が並んでおいででした。外では、観音様が見守ってくれていまか、豊後の国分寺に劣らぬ永興寺が建てられたようです。豊後の国心であったことを学びました。国府の近くに一寺が必要ということして、豊後の国分寺に劣らぬ永興寺が建てられたようです。豊後の国心であったことを学びました。国府の近くに一寺が必要ということして、古代の隆盛は南大分(古国府)が中ところが、前述したように、古代の隆盛は南大分(古国府)が中

いものがあります。
て、今この地に自分が元気に生かされていることに改めて、感慨深律令制支配に苦しんだであろうことを想像すると、長い年月を経病や不作により、農民(祖先)は困窮を極めたに違いない。中央の歴史を振り返ってみると、奈良、平安の昔この豊後の地でも、疫

年)島津軍との兵火で焼失した。江戸時代に入り、1675年天台く。その後大友氏により、再興されるが、天正14年(1586かし律令制の衰退とともに、国費による経堂が無くなり衰微してい後国分寺には、水田10町、僧20名、封土50戸とありました。した般、盆参りの折、本堂の前の案内板に目をやりました。当時豊

ております。
おか実家も、昔からの慣行で、正月には、米一升を持参して合掌しわが実家も、昔からの慣行で、正月には、米一升を持参して合掌しか創建され、薬師如来が安置され、現在に至ると。現代も天台宗のが創建され、薬師如来が安置され、現在に至ると。現代も天台宗の僧円海の志に始まり、遂に元禄7年(1694年)金堂跡に薬師堂

二時間かけて練り歩きます。 そして、今も続く、六年に一度の大名行列がうさぎ年の今年、 神社の祭礼に息子が参加させていただいたこともあります。 加してきました。 に異なる所作を振りながら、井手の上地区から神社までの約2㎞を 受けたといわれる武具を揃え、総勢150名をこす行列が、 して関わっております。賀来神社は、柞原神社との繋がりも わ に行なわれます。江戸時代の後期、 このように、 かります。一方、現在暮らしている賀来では、賀来神社の氏子と わが郷土は、古代から歴史との繋がりも深いことが 父や夫、息子たちも、 府内藩主、大給松平家から譲り 適齢期に 地区毎 九月

ことがあればと思う日々です。時、今の安寧を願う自分がいます。地域の為に、微力ながら役立つちの年、さほど変わらぬ景色を眺めながら、先人達の苦悩を想う

昭和の町の大友家臣

土谷 恭生

る武将吉弘統幸。

「地並石ダムの近くです。並石ダム西方屋山城主は、大友家を代表す」

「私の故郷は、豊後高田市昭和の町はずれ岩山に囲まれた東都甲一

し向け一挙に城の攻め落としを図った。屋山城は高さ543メート城に蘆(籠)城する。これを知った黒田勢は千名の軍勢を屋山城に差水の合戦で石垣原の露と消えたが、奥方は僅かの手勢とともに屋山慶長五年統幸は、豊後国速水郡石垣原に展開した大友義統黒田如

村人の手により弔い供養して塔を建てたということです。 村人の手により弔い供養して塔を建てたということです。 でしたが髪は乱れ、じっと目をつむり身じろぎもせずにしてたまま引き据えられた。齢は40にならず城主の奥方としてよろしたまま引き据えられた。齢は40にならず城主の奥方としてよろしの身となり、山上から引きずり降ろされた統幸の奥方達は、縛られル四方絶壁だったが、必死の抵抗もむなしく、東の間忽ち捕らわれル四方絶壁だったが、必死の抵抗もむなしく、東の間忽ち捕らわれ

あり、森の中にひっそり姫の塔が建っています。「股塚」モモズカというところで歴史上でも珍しい股裂かれの刑が

が懐かしく思い出されます。裏山より続く山道を屋山へ何度も登りました。何十年も前の事です4キロをみんな歩いて通学していました。遠足や写生大会で学校の実家より「モモズカ」の手前「鞘の元」集落高台の小学校へ毎日

中学校は小学校から4キロ先で自転車通学でした。

だきたいです。
中学校裏山は長岩屋筧城。城主吉弘鎮理の次男に生まれた幼名中学校裏山は長岩屋筧城。城主吉弘鎮理の次男に生まれた幼名中学校裏山は長岩屋筧城。城主吉弘鎮理の次男に生まれた幼名

る蕗の里「富貴寺大堂」も近くです。 「弥陀堂建築では三古建築の一つ、九州で最も古い木造建築のあ

テレビで放送されるよう願っています。昭和の町に訪れる方は年間三十万人とか。大河ドラマ「大友宗麟

すべって転んで「大分県」

都甲 強

結構ハッピーな気持ちになりました。しました。支出した金額に比べると、頂ける金額はごく小額ですが、先日鶴崎支所に行き、○○○費・二千数百円の支給申請手続きを

思いました、どうして (おおいた)は大分と書くのだろうか?とのように、住所の欄には大分県大分市と書くのですが、ふと疑問にず自分の名前と住所を書く作業が付きものです。私もその都度当然ところで役所に届ける各種申請書や、色々な提出書類には、必

藩の飛地、鶴崎地方も同じでした。 「世界のです。維新当時の日田や中津の皆さんは、県庁の所在地はわが町にこそふさわしいと思い、また2万石程の小藩、府内藩の県としたのです。維新当時の日田や中津の皆さんは、県庁の所在地県としたのです。維新当時の日田や中津の皆さんは、県庁の所在地県でも、中津県で中津市でもよかったのです。しかし維新政府は、市でも、中津県で中津市でもよかったのです。しかし維新政府は、市でも、中津県で中津市でもよかったのです。しかし維新政府は、市でも、中津県で中津市でもよかったのです。

)は、何とか大分県として仲良く月日を重ねて来たのです。に日田】と唱えられた、県内十二郡(東西は国東郡、南北は海部郡の年の間【東西南北宇佐下毛、速見て通るは大分郡、大野直入玖珠しかし今日の大分県は廃藩置県から平成の大合併までの約13

普通の読みで、オオイタとは読めない。すが、この二字の漢字大分は、ダイブン又は、オオワケと読むのがすが、この二字の漢字大分は、ダイブン又は、オオイタと云う地名の漢字での表記は大分と書いて当たり前で

いる方は始めから大分と書ける人です。
いる方は始めから大分と書ける人です。
かも知れない。 イタ(分)の字はブン(分)と同じ字だと知ってう方は、てっとり早く「大板県大痛市」などと書いて、お茶を濁す辞書を幾ら繰っても出ては来ない。他人に聞くのが恥ずかしいと思辞書を幾ら繰っても出ては来ない。他人に聞くのが恥ずかしいと思く、分)の字を忘れるとかなり困ります。 イタの字の(分)は、と漢字で書けるのでしょうか? オオータをなんの苦も無く、大分例えば岩手県や青森県の人達は、オオイタをなんの苦も無く、大分

書く男がいたので、一概に安心はできない。 心配はいらない→とは思うのですが、私の友人に鳥取県を取鳥県と善日本人であれば、国内の県名くらいは漢字で書けるだろうから

れると、二度とは書けるような気がしない。て苦労もせずに書けそうですが、大分県の漢字表記だけは、一度忘長崎県や福岡県の県名は、漢字を一度習えば次からは、たいし

始めで、 いる。 オキタの地名に、ただ適当に「大分」と云う漢字をあてたのではな の郡(こおり)は、碩田(おおきた)と名づくべし』と言ったのが 筑後平野と比べての事ではなく、 い。文字通りオオキタの郡は、広い平野が丘陵によって分かたれて 表記して万葉集を編纂した当時の優秀な大和朝廷の学者諸氏 天皇が巡幸の途上現在の大分市あたりを見て『広く大きなるかもこ いる郡と解すべきです。広い田圃、広い土地とは何も、 「豊後国風土記」では、 べれば広いと云う程度のことなのです。 「記・紀」を編纂した奈良朝の官僚や大和言葉を万葉仮名で そのオオキタが訛ってオオイタ=大分になったと記されて おおいた(大分)の地名の起こりを、 お隣の速見の郡や国前地方の郡と 奈良盆地や が、オ

丘から眺めた南大分や滝尾・光吉・賀来・植田あたりの、それぞれ風土記」にあるオオキタ=大分の風景は、当時国府の在った上野の現在の大分市街地の大部分は、古代遠浅の海でした。「豊後国

域にない特色のある景色を映したものです。の平野が低い丘と河川によって区分(くわけ)されている、他の地

なったと云う、簡単なつくり話で済むのです。辺りですべって転んで「オオイタ!」と叫んだから、地名が大分に単なる地名伝説であれば、昔々景行天皇様が巡幸のおり、この

を漢字二字で、抽象的かつ簡潔に表わしたものなのです。
終れる一大分の地名の漢字表記は、大分郡(オオキタノコオリ)の地形

【追記】 すべって転んで「大分県」は

のです。

のです。

のです。

のです。

の地形の意訳に違いない思い、本作品にしたもは「オオキタ」の地形の意訳に違いない思い、本作品にしたも記と同じものを感じました。(おおいた)の漢字での表記大分雲莫蒙家當将見」と比較して「オオキタ」=(大分)の地名表雲莫蒙家當将見」と比較して「オオキタ」=(大分)の地名表言美家のあたり見む」を、万葉仮名表記「未通女等放髪乎木綿山万葉集1244番「おとめらが放りの髪を木綿の山雲なたなび

我が故郷、大分

た。父は幼い子供達を海水浴に連れて行ってくれたものだ。は、大分港の対岸には、まだ広くはないが砂浜のある海辺があったる時代だった。浜町から右折し海岸を少し歩くと砂浜の広がった国道との間にあり、黄色と緑色のチンチン電車が別大国道を走って国道との間にあり、黄色と緑色のチンチン電車が別大国道を走って国がとの間にあり、黄色と緑色のチンチン電車が別大国道を走って国がのの間にあり、黄色と緑色のチンチン電車が別大国道を走って国がのの間にあり、黄色と緑色のチンチンである。昭和二十年代から三十年代後半迄を大分で過ごした。実家は春日神社と別大田が過ぎ去ったのだろう。昭和二十

住民にとって身近な山だった。二十歳の春、春休みで東京から帰っ学生時代毎朝、庭から見える高崎山を眺め登校した。高崎山は、

とした。父も兄も私も野生の猿の集団の怖さを実感した日だった。と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の誘いにそそくさら」と兄と私。時刻はお昼近くだったが、強い父の諸いにそそくさら」と兄と私。

鶴見山や由布岳や白い湯煙が見えてくる。の美しい海、別府と大分を区切る様に鎮座している高崎山。別府の大分空港から空港特急バスに乗ると、別府湾が見えて来る。故郷

春時代もあったが・・・・。 春時代もあったが・・・・。 本時間を過ごす様になった。近い将来このの、寒い季節を除いて時間を過ごす様になった。近い将来こののた。寒い季節を除いて時間が出来ると灯台から、海や遠くに霞むた。中学生になると、飼い犬と散歩しに白灯台に行くのが習慣となく歩くと白灯台だ。灯台から灯台間を行き来する船を見る事が出来ま家から徒歩十数分で春日浦の先、大分港の東の一角に着く。暫

っているのだろう。は、自分を生み出してくれた源流であり、心奥深くでサワサワ波打現在、故郷の空や海山々の景色が何故か、想い出される日々。故郷高校卒業後大分を離れ、東京の練馬で人生の大半を過ごしている

は海、高崎山、かんたんだったのだろう。 は海、高崎山、かんたんだったのだろう。 は海、高崎山、かんたんだったのだろう。 は海、高崎山、かんたんだったのだろう。 は海、高崎山、かんたんだった。母が最後に描いた絵は、別府湾の絵だった。言葉事が好きだった。母が最後に描いた絵は、別府湾の絵だった。言葉家に引っ越した。母は老化が進み記憶力も薄れていたが、絵を描く大分で九十年近く過ごした実家の母が、九十四歳で娘のいる我が大分で九十年近く過ごした実家の母が、九十四歳で娘のいる我が

を楽しみにしている。

古郷を愛し、遠く離れて住む人の故郷への想いは、歳を追うごと

を楽しみにしている。居間の壁に掛けられている由布岳の版画に強まる気がしている。居間の壁に掛けられている由布岳の版画を楽しみにしている。居間の壁に掛けられている由布岳の版画を楽しみにしている。居間の壁に掛けられている由布岳の版画を楽しみにしている。居間の壁に掛けられている由布岳の版画を楽しみにしている。

鳥と鶏」

二宮 基陽

鳥刺し等の大分には鶏を使った料理が数多くある。活に浸透している。宇佐からあげ、中津からあげ、吉野の鶏めし、た」と新聞記事を目にした。大分ではそれくらい鶏肉が私たちの生「鶏肉の購入額と消費量で大分市が5年ぶりに日本一に返り咲い

ことに驚愕した。全国的には「からあげ」が有名で、大分県以外のトランに行った時に当たり前のようにとり天定食を探したが、ないとを、大分県外に暮らしているときに知った。住まいの近くのレスある、いわゆるメジャーな料理だと思っていたが、そうではないこその中でも、私はとり天が大好きだ。鳥てんは全国のどこにでも

食」があるお店は少ない。 レストランに入っても、「から揚げ定食」はあっても、「とり天定

ポン酢の酸味が口に広がり食欲を増進させ、箸が進む。カラシでいただくのが好きだ。口に入れるととり天のサクサク感とり天は天ぷら衣をつけて揚げ、食べるときにポン酢やカラシを使っり天は天ぷら衣をつけて揚げ、食べるときにポン酢やカラシを使っちだろうか。唐揚げは肉に下味を付けた片栗粉をつけて揚げるが、とだろうか。唐揚げは肉に下味を付けた片栗粉をつけて揚げるが、とだろうか。唐揚げは肉に下味を付けた片栗粉をつけて揚げるが、ととり天はなんでこんなに魅力的なんだろうか。からあげとの比較とり天はなんでこんなに魅力的なんだろうか。からあげとの比較

ーな味わいは、噛めば噛むほど鶏肉のうま味と奥深さを感じる。た歯ざわりが特徴なので、サクサクとしていて、なおかつジューシの材料に片栗粉が加えられ、天ぷらに比べて厚い衣のざっくりとしあとは、「コロモ」の違いではないだろうか。とり天は、コロモ

っくらと炊き上がったおにぎりを、鶏の甘い匂いも一緒に頬張るは好きだ。おにぎりの形を見ているだけで、幸せな気分になる。ふ受け継がれている。そんな鶏めし料理のなかで、特におにぎりが私打ち上げや祭りなど人々が集うときのまかない食として、各家庭で、かつては客人をもてなすためのごちそうとして、また農作業のあと、私の大好きな鶏を使った誇れる料理に、吉野の鶏めしがあ

感できる瞬間だ。いっついにおいしさが広がってくる。大分に生まれてよかったと実と、鶏肉の深いコクと旨み、独特のごぼうの香りがたまらない。口

なく、 これら料理を私がいただく。大分を感じる瞬間であり、 は、 といわれる料理なのだろう。先人たちのノウハウと愛情が詰まった だ。それらが化学反応を起こして、おいしい食べ物を創り出す。 がその土地独自の食文化を創り出す。大分の食べ物が美味しいの 地の風土や文化を映し出す鏡だ。その土地に息づく人や植物や空気 れてよかったと心から思う。 が住むこの大分では、とり天であり、吉野の鶏めし、その他の名物 て感じにくいが、大分の食べ物は本当に美味しい。食べ物はその土 11 よ」と言われることが多い。大分に30年超住んでいる私にとっ 県外の友人が大分に来て「大分は食べ物がおいしくてうらやまし 恵まれた山や海から自然からの産物である素材の良さだけでは 、そこで暮らす人々が作ったレシピや愛情が詰まっているから 大分に生ま

美しく、美味しい大分が続くことを願うばかりだ。行為を通じて、ふるさとも引き継いでいくのであろう。今後もこのく。環境が変わり、周りの風景が変わったとしても、食べるという、の味が時代に合わせて変化しながら、次の世代に引き継いでい

何かある大分

船橋 智力

ら来た事は明らかで自然と会話もそういう話題からはじまった。会も多く、スーツ姿に大きなカバンを抱えながら歩く姿から県外かの営業担当として大分にもよく出張で来ていた。タクシーに乗る機合から10年ほど前まで私は東京の会社に勤めていた。九州地区

葉県で東京の会社に勤めていることを話すとタクシーの運転手さん「お客様はどちらから?」「ご出身は?」と尋ねられ、出身は千

さんなどの情報を耳打ちしてもらうのは存外嬉しいものである。をうたいなどの情報を耳打ちしてもらうのは存外嬉しいものである。なったのだが最初は少し戸惑った記憶がある。というのも、他の地方である。もちろん、お国自慢ばかりを連ねられるのも困るが、さりげなったのだが最初は少し戸惑った記憶がある。というのも、他の地方種の照れ隠しというか謙遜だということは会話を続けていくとわかなのにが返ってきた。もちろん本気でそう思っているわけでなく、一答えが返って「都会ですねえ、大分は何もないでしょう」という類のは決まって「都会ですねえ、大分は何もないでしょう」という類のは決まって「都会ですねえ、大分は何もないでしょう」という類の

のも有益であった。

のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。
のも有益であった。

ざら、ででででででは思け、大分には魅力が溢れているということ食べて至った率直な感想は、大分には魅力が溢れているということ、3年間、大分県内の各地を見て回り、お酒を飲み、色々な料理を

あるような大パノラマの風景がそこにあるのである。 豊後大野市の原尻の滝が有名だが、私のお気に入りは、荻岳からみる風景だ。荻岳は標高が800メートルほどでそこまで高くはないのだが、立地が良いのである。つまり、北を望めば "くじゅう連山のだが、立地が良いのである。つまり、北を望めば "くじゅう連山のだが、立地が良いのである。かまり、北を望めば "くじゅう連山のだが、立地が良いのである。 れ重町の夢吊り橋やまず、数々の絶景スポットが魅力的である。 九重町の夢吊り橋やまず、数々の絶景スポットが魅力的である。

つ肥沃な土と水を感じさせる感動的な体験であった。象は一変した。米の持つ本来の香りが芳醇に漂うお酒で、土地の持いう先入観が強かったのだが、緒方の酒蔵の日本酒を飲んでその印次にお酒である。九州は焼酎文化と思っており、大分は麦焼酎と

味も申し分なく、大満足のランチであった。 りつけられているのである。これで二千円を切る値段にも驚いた。類の魚の大きな切り身が3、4切れずつお皿にびっしりと美しく盛切り身が3切れずつで2、3千円ぐらい取られるのが相場である。切り身が3切れずつで2、3千円ぐらい取られるのが相場である。通、例えば東京のお店で刺身定食を頼むと3、4種類の魚の小さな通については、蒲江港で頂いた刺身定食の味が忘れられない。普

大分の魅力について語り始めるとキリがない。県内だけでなく、大分の魅力について語り始めると、現内だけである。そして、これから大分を訪れるであるう私の知人や友を事である。そして、これから大分を訪れるであるう私の知人や友のまだまだ数多く残されているだろう。これからの私の目標は、の為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分はない。もちろん、何でもの為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分はない。もちろん、何でもの為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分は竹田での田舎生活の為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分は竹田での田舎生活の為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分は竹田での田舎生活の為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分は竹田での田舎生活の為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分は竹田での田舎生活の為にも、日々アンテナを鋭く張りながら大分は竹田での田舎生活の表に、大分の魅力について語り始めるとキリがない。県内だけでなく、大分の魅力について語り始めるとキリがない。県内だけでなく、大分の魅力について語り始めるとキリがない。

私のふるさとは大分市地域婦人会

歌を歌います。月に2回の会です。好きな歌詞は、来るようになりました。明治公民館の歌声サークルでは毎回大分市を出さないで歌っていましたが、ようやく声高らかに歌うことが出るは、大分市が好きです。この3年、コロナ感染症予防のため声

分」です。言葉の意味を嬉しく感じながら、いつも歌っています。に、青春の夢は明るく、共にむつみて、進みゆく大分、われらの大「豊の海に陽は昇り」や「豊の山に緑映え」、「ふれあいの心豊か

す。大分市明治婦人会の歌です。ご紹介させてください。会に入ってもうすぐ45年になります。その婦人会にも歌がありまどもが高校生になり、お役がなくなったのがきっかけでした。婦人までは、子どもの小中学校のPTA活動をしていましたが、下の子私は、婦人会に40歳の時に入会しました(現在は74歳)。それ

緑豊かな明治が丘に

家並み新たに増えゆく仲間

変わるふるさと新たないぶき

希望は高くゆめ清らかに

集うは明治婦人会

心やさしい住みよい町に

光あふれる明治が丘に

歌や踊りのたのしい仲間

創るふるさとはばたく力

希望は高くゆめ清らかに

集うは明治婦人会

夢をはぐくむ明治が丘に

仲良く学ぶおんなの仲間

かたい絆は誰にもまけぬ

希望は高くゆめ清らかに

集うは明治婦人会

未来めざして伸びゆく町に

されたことでしょう。皆さんにお聞かせしたい自慢の歌です。会員のご主人の安部哲雄さんの作詞作曲です。この歌にどれ程励な

が出来ると思います。 しあえる関係を築き、その関係を広げていけば、心の通いあう地域りをめざしています。それには、まず婦人会の仲間がお互いを信頼私のふるさとは、大分市地域婦人会です。心の通いあう地域づく

先週の日曜日の葛木神社で行われた、葛木婦人会主催の七夕飾り先週の日曜日の葛木神社で行われた、葛木婦人会主催の七夕飾りまんでの日曜日の葛木神社で行われた、葛木婦人会主催の七夕飾ります。何かお手伝い出来ることがあればと出かけました。赤ちゃん連れの方からご高齢の方たちで賑わいました。赤ちゃんをわれました。いろいろ話していると、そのお母さんから、お世話してくれてるおばちゃんたちは「なんか上品でやさしいなぁ」と言してくれてるおばちゃんたちは「なんか上品でやさしいなぁ」と言してくれてるおばちゃんたちは「なんか上品でやさしいなぁ」と言いてくれてるおばちゃんたちは「なんか上品でやさしいなぁ」と言いて、高木婦人会主催の七夕飾り、先週の日曜日の葛木神社で行われた、葛木婦人会主催の七夕飾り、先週の日曜日の葛木神社で行われた、葛木婦人会主催の七夕飾り

と思い、婦人会活動を今後も続けていきたいと思います。優しさが地域をつくり、優しい人達がいっぱいの大分市であれば

「イカリ島」発の「大分」感

一ヶ尻 洋

OV)

る。 北へ数十メートル先に、府内城の外堀(今は道路)が更に数百メー りめいた大きなものを抱いていたことを思い出す。当時は、 うになった」と習った。大きな興奮を覚え、大分市で育っている誇 年少女の精神面に与える影響は大きいものと感じた。 光した感想としては、気品があり、強く堂々としており、市民はも 城壁内は駐車場等として使用されている。焼失した城の模擬 トル北へ進むと府内城跡があり、海水を引き込んだ内堀が今も有 に住んでいたので、 おろし、この地は大きく開ける、と言って、おおわき、と名付け の中でイカリ島について「昔、 が、あれはイカリ島だと、教えてくれた。そして四年生の時、 ンネルに入る前の一瞬の間に見えるものが有った。三年生の 分駅から久大線で父の実家に帰り、農作業の手伝いをしてい 全国的には結構あるようだ。現在の今治城は、その一つである。観 大分市立金池小学校に通っていた頃、 蒸気機関車の汽車で、 残念なことに、府内城は一七四三年に焼失したとのこと。府内 観光客からも関心を持たれていると思う。今治市で育つ少 時代が移り、 家から北へ向かい、 元町地域を過ぎ、 漢字を当て「大分(おおいた)と呼ぶよ 神武天皇が、この地に立ち寄り錨 金池小学校前を通り過ぎ、 土・日曜日 古国府地域に向 は 時 . 上野町 が城は、 かうト たも 授業 父

ベント・祭り等々で、ゆっくりした気持ちで過ごしている人が多 反面、 だけで、 復時に感じることであるが、家族連れで楽しんでおり、時には、イ 位置・規模として素晴らしく、評価している。ホルトホールへの往 面、大分駅南側の上野の森公園は、こうう):一けで、それ以上の感慨を、お二人について持っているだろうか?は場の南西部分に設置されている。忙しく通り過ぎ行く人が多い。 のと思う。神武天皇が、この地は大きく開ける、と言った事を聞 多勢の人が和み、 語り合っていく中で、 新しい大分が創られる

> そのことだけで誇りと言えるとは思えない。大分市民・県民 ているだろうか? 国民の多くが、 が見当たらない。確かに新日鉄関連の大企業が立地しているが、 た時の想 で、今の 大分市の何を認識し、親しみ、 大分市を考えてみると、 関心を持って評 「これ」と言 • ったも 我

で、 西 遠 \vdash 加 我々一般市民の機運の高まりが、 行して進めて行くことが望まれる。大分市・県は勿論であるが、 を実現することである。しかも、この三つの実現に向けて、 宗麟公の顕彰会がご努力頂いているが、宗麟公の「大河ドラマ化」 を高め、県民に繋ぎ、全国的に情報化 国コーナー及び、ポルトガルコーナーを創る等)をして市民の関心 の然るべき場所に移設し、 ろうか?即ち、①府内城を模擬城として、堂々と再建 大友宗麟公及び、 洋文化、 教の洗礼を受けたからなのか?また、元町地域に有る宗麟公の庭 一來耕三さんがテレビで、大友宗麟公顕彰会の牧達夫会長が講演 を売り出すもの (復元中) を見学したが、庭園が再現され、 「戦国武将の中で一番優しい武将であった」と語った。 去の歴史の中から大分市の未来に繋ぐ大きな遺産として、 特に医学・福祉等への取り組みに力を入れた。 ザビエルさんの銅像を大分駅南側の上野の森公園 (次の①~③)を実現することが必要ではないだ ありし時代の雰囲気創り(例えば豊後の 何倍も必要だと思う。 を図る。更に③として、 南蛮貿易に併 生する。 歴史学者 同時平 キリス 次に② ぜて、 大友 \mathcal{O}

に、 になるものと信じている。 擬府内城として大分市が設置することにより、 高揚し、 い戦国 目には見えない精神面で、 武将"としてイメージを高め、 これからの若人達 また、 大分市民の意識が更 府内城 跡 地 力 を模

「大分市観光ボランティアガイド」として 三宅 英明

ました。 「南蛮文化と大友宗麟を学ぶ会(ふらんしすこ)」の仲間と出会え 興味津津。馬齢も四十代半ばに達した頃、歴史学習が趣味の会、 興味津津。馬齢も四十代半ばに達した頃、歴史学習が趣味の会、 せ読んだものです。それ以来現在までいつも郷土の事には何事にも だ島の物語」「百合若大臣伝説」「山弥長者物語」などに胸を弾ま 夏休みの学習帳「夏の友」に載っていた、郷土大分県の民話「沈ん

じめて開花させた男。 戦国時代末期の郷土の英傑、大友宗麟。豊後府内に西洋文明をは

張っている仲間達です。 しての、宗麟の知名度アップのためのイベント開催など、地道に頑その数々の所縁の地への研修旅行や現地の人達との交流。年間を通

ましたので、渡りに船の話です。 の性分と多くの人々と接し世間を広く知りたいとの願望が募っていめ、私と一緒にボランティアガイドをしませんか?楽しくて達成でした。そんな頼もしい彼から「三宅さん!大分県や大分市を学ぶでした。そんな頼もしい彼から「三宅さん!大分県や大分市を学ぶでした。その仲間の一人K氏。実直博学な元小学校教諭だった、今は亡き

界に系がでした。 笑顔でのお迎えからお見送りまでなど、真心での観光案内の要領習く添えるよう時間の調整やお客様に満足いただけているのか?終始ー最初の二、三回は先輩の見習い助手です。お客様の要望になるべ

そして「大分市観光ボランティアガイド」の一員としてデビューそして「大分市観光ボランティアガイド」の一員としてデビューを、一瞬の迷いはありましたが、このガイド行程の連絡は大いたが、実顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、実顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、実顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、笑顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、実顔でお別れの挨拶が出来ました。ほっと胸を撫で下しましたが、大分市観光ボランティアガイド」の一員としてデビュー

りの自信も出来ました。葉と、かぼすの食感が綴られていたのを思い出します。わずかばかので、後日少しばかり進呈しましたら、その礼状に温かい感謝の言ちょうど時節柄、大分を代表する味覚果実「かぼす」の旬でした

で121回目となり、ご対面の折々の情景が偲ばれる毎日です。あの感慨深い第一回から13年。ガイド案内した回数は本年8月

た充実感に浸れます。いくつかの思い出のガイド例を綴ります。返す度に、えも言われぬ心の安らぎと、誠意を尽くしてこそ得られているお客様からの心のこもったお便りがたくさんあります。読み案内した121組の中で「私の人生の宝物」として、大切に保存し

う広島県の青年。身体障がい者で車いすでの笑顔での対面。莉乃さ大分県が生んだ若き女性大スター「指原莉乃」の大ファンだと言

暑中見舞いを頂いています。へ。「級友に分けてやり自慢するんだ」と笑顔。現在でも年賀状やでのカメラ激写。校門、校章、校舎など。校庭の砂はビニール袋んが通った大分市立王子中学校へご案内。中学校長のご配慮で校内

ガイドが大分観光の一助なら幸甚です。までの長道中のご案内。現在でも必ず年賀状を頂いています。私の弘」の著者です。ご案内は、大友氏庭園発掘現場、鶴賀城、臼杵城兵庫県の開業医兼小説家の先生。歴史小説「真田信繫」「島津義

~故郷は自然の中の偉人の宝庫~
 安松

昭和36年秋の大水害が元で、廃線になった。ば、以前は日豊線杵築駅から国東まで、国東鉄道が走っていたが、私の故郷は、国東半島の東側に位置する国東市です。国東と言え

舎というイメージです。 その後、大分空港が開港しているが、いまだに国東は何も無い田

意外な偉人が活躍した生家が有った。 しかし、そんな田舎の自然を好んで満喫していると、思わぬ所に

接した三浦梅園資料館もある。享年66。 療をなりわいとしていたが、哲学者として有名。三浦梅園旧宅に隣政治経済学、政治道徳学、文学、科学等多岐に渡り学んでいる。医い、また杵築の綾部冏斎に師事し、哲学、医学、天文学、生物学、家がある。少年時代から朝来の西白寺まで書物を求めて独学に通先ず、安岐町富永に享保8年(1723)三浦梅園が生まれた生

口)が生まれた生家が有る。 次に、国東町来浦に安政5年(1858)元田肇(旧姓猪股政

泉に頌徳的(しようとくてき)な元田神社が祭られている。 枢密院書記官長も歴任。中央大学創立者の一人。又、長野県山田温なり逓信大臣、鉄道大臣、衆議院議長を歴任。その後枢密顧問官、弁護士になり、元田家に入り元田肇となる。その後、衆議院議員にか、政吉が生まれる。子供の頃から詩にたけていたので、杵築藩校祖父は三浦梅園の本家筋の人で、その人の3男栄造が猪股家に入

生家に洗心亭、渓琴荘の元田肇記念館が有る。享年80。

嶋)が生まれた生家が有る。 さらに、安岐町瀬戸田に明治6年(1873)田原淳(旧姓中

り、東里大蔵省に引き抜かれ、臨時議員建設局技師となり建築主任の、東里大蔵省に引き抜かれ、臨時議員建設局技師となり建築主任のインテリアデザイナー)を担当する。大正8年(1919)に国のインテリアデザイナー)を担当する。大正8年(1919)に国のインテリアデザイナー)を担当する。大正8年(1919)に国会議事堂の新築設計案の募集があり、上司や同僚との共同で二点応会議事堂の作品も三等に入選した。一等の入選作で建築することになり、東大教授の辰野金吾博士に師事する。武田教授の推薦で上家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。京都高等工芸学校を卒業し、恩師は同校教授の武田五生家が有る。

正9年 広くて高い天井の中央ホール、 として、 国見町向田の重光家も。享年59。 を要して完成した。その後、設計事務所を開き、 建坪五千七百坪、 和11年(1936)ピラミッド型屋根、五重の塔がすっぽり入る (1920)、上棟式:昭和2年(1927)、 国会議事堂の設計施行の総 調度品など、数々の苦心をした。御影石や大理石は山 延べ人員二百五十万人を動員して、十七年の歳月 茨城などから良質な物が集められ、 天皇の控えの間、装飾、 m 纏め役を担った。 赤坂離宮や国東市 敷地二万坪、 、竣工式:昭 壁レリー

官高等試験合格、外交官補、ドイツ在勤。英国在勤。 法科大学法律学科独法科卒業後、外交官及び領事館試験に合格。文 館 会で演説する。 副総裁。外務大臣・副総理。全権委員。 通貨はドルに公用語は英語に成る等、 リ号艦上で降伏文書に調印。軍政(日本の政府も憲法も無くなり、 により、右足を失う。別府九大温研へ転療。 実家の杵築本庄に移り、後に安岐山口の重光家に養子となる。東大 ・重光葵資料館がある。 更に安岐町下山口に、明治20年(1887)生まれ さらに1年後減刑、刑期満了。総裁。大分2区連続3回当選。 特命全権公使・中国在勤。上海新公園の天長節祝賀式場で爆弾 A級戦犯容疑者として逮捕、起訴。 享年69。 重光葵は大野郡三重町で生まれ、三歳で 国内の統制もとれない)の阻 日本政府代表として国連総 判決禁固7年。2年後仮釈 全権委員としてミズー ロンドン着 (T) 山 渓偉

35kmが開通した。 トイレとしてT1~T4コース、K1~K6コースの10コース計12015年にかけて、九州初のロングトイレが国東半島峰道ロング2013年世界農業遺産に認定された。更に同じ年の2013年~これらの偉人が育った、何も無いと思われた国東を含む地方に、

本遺産に認定され、同年に文殊耶馬が、国指定名勝に認定された。 更にさらに、2018年に鬼が仏になった里「くにさき」が、日

いまま、何も無いと思いこんでいたのかも知れない。文化と言う素晴らしい営みが、それこそ自然に溶け込んで気付かなこのように、何も無いと思われていた田舎は、自然を生かした中に

還暦の目覚め『田北若杉家史概略』が発端

若杉 孝宏

祖と書かれていた。後日、本物の系図を叔父宅で見た。で何となく信ぴょう性を疑ったが、なんと大友能直の孫が田北氏のから父の実家である田北家の系図をみせてもらった。叔父の手書き歳を迎える正月『自分史』を作りたいと思った。ちょうどその頃兄」のタイトルで自費出版してもう15年になろうとしている。60

なった。

文の出自が田北家というのは物心つく頃から聞かされていたが、久の出自が田北家というのは物心つく頃から聞かされていたがら、久の出自が田北家というのは物心つく頃から聞かされていたがら、なった。

るいは近世文書とも呼ばれる江戸時代の庄屋の記録である。書』の存在を知った。これは庄屋文書、地方(じかた)文書とも、あまず先哲史料館に行って関連書籍を職員に聞いてみると『田北文

本家12代目親信夫婦(室は後妻)の墓石がわが墓地(高祖父母・曾祖り、本家とはとても近いことが分かった。というのは良親の実父・いが、我が家は13代目の高祖父・良親が分家して下屋敷初代となこれは正に自分の直系の先祖だった。直系と言うのは正確ではな

に自分がしている。 はいとこの田北泰生氏であるが、この 15 年、お墓の清掃は自主的父母とその娘全七基)にあるからである。と言ってもこの墓地の主

因みに自分は城後田北氏末流である。数か所あって、田北氏本流は戦国時代大友氏滅亡と同時に滅亡した。ある。自分の認識では庄内・日出・城後(直入町上田北城後)その他ここで断っておくが田北氏も多くの分流がありそれぞれの本家が

田北氏を中心に大友一族それから大分の歴史全般と興味は広がっ田北氏を中心に大友一族で目れるほど疑問も増えるというのが実感である。自費でいき、知れば知るほど疑問も増えるというのが実感である。自費はいき、知れば知るほど疑問も増えるというのが実感である。自費のはわずか泰生氏(下屋敷6代目)一人のみだ。

がコロナ禍で再びとん挫、近々5回目の開催をもくろんでいる)「田北会」が自分の自費出版を機に再開、2年に1回開催してきたらあきらめた。(ただ、当時十数年間中断していた田北一族の集いたこともあったが、なにせ資金とスタッフのめどがつかないことかそこで「大友一族全員集合」のようなイベントを企画しようとし

っている。
つている。
つている。
つている。
つている。
ついことがやれる団体だ。一も二もなく入会して現在に至分がやりたいことがやれる団体だ。一も二もなく入会して現在に自であった。そして数ヶ月した5月、「大友氏顕彰会」が発足しその来る?というので参加した。それが牧達夫理事長との最初の出会いそのころ姉の同級生の大友氏の出版記念パーティがあるので姉が

きついときもあるが様々なイベントの手伝いをした後の充実感は何くでは自分のライフワークとなっていて生き甲斐でもある。正直

位の熱意と識見に触発され、今回は一般応募した次第である都度新しい発見がある。今回のエッセー募集も2回目だが応募者各版するたび原稿を書いたり会員諸氏の寄稿を事前に読ませてもらうフォーラムはもちろんだが、例えば年一回の『大友氏の風景』を出物にも代えがたい。さらにそのイベントごとに、メーンイベントの